岡田遺跡現地説明会資料（令和５年 10 月 21 日）

（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

はじめに

岡田遺跡は北上市村崎野 12 地割内にあります。この一帯が遺跡であることは以前から知られていました。このたび「北上北部産業業務団地」の造成が計画されたことから、遺跡の内容を後世に伝えるため、工事の前に発掘調査を行うこととなりました。

私たち県埋蔵文化財センターは、令和４年度に引き続き、今年度も 36,000 ㎡を超える広大な範囲を対象に、４月から発掘調査を進めてきました。その結果、過去の人々が刻んだ生活の痕跡が見つかりました。

＜調　査　要　項＞

遺　跡　名：	岡田遺跡
所　在　地：	北上市村崎野 12 地割内
事　業　名：	北上北部産業業務団地造成事業
委　託　者：	北上市
発掘調査期間：	令和５年４月６日～11 月末(予)
調査対象面積：	36,520 ㎡
遺跡略号/番号：	OK-23／ME45-1390

丘の上一面に広がる落とし穴群は縄文時代、南向き斜面に並ぶ竪穴住居は平安時代のものです。ある時は狩りの場として、ある時は暮らしの場として、時代の流れとともに、人々にとってのこの丘の意味も移り変わっています。

土器や石器など、持ち帰って保管できる「遺物」とは違い、地面に刻まれた痕跡を現地で直接ご覧いただける最後のチャンスとなります。是非じっくりとご覧いただき、先人の暮らしぶりに思いをはせてみてください。

縄文時代

縄文時代の遺構は、令和４年度に続き、落とし穴が見つかっています。調査区全体に分布しますが、調査区の東側ほど多くなる傾向がみられます。その数は 100 基を超え、主に溝形と円形のものがあります。今年度の調査では円形のものがより多く見つかっており、西側ほど、円形の落とし穴の比率が高くなる傾向が見られます。写真１は溝形の落とし穴です。長さ２～５ｍ、幅１ｍ前後で、底面の幅が人の足が入らないほど狭いものもあります。写真２は円形の落とし穴です。直径 1.5～２ｍのものが多く、底面に副穴と呼ばれる小さな穴があります。両者の形の違いは、落とし穴が作られた時期や対象となる動物の種類が異なるためと考えられます。

写真１　溝形落とし穴

写真２　円形落とし穴

平安時代

平安時代の遺構には竪穴住居があります。令和４年度と同様に、南向きの緩斜面で５棟の竪穴住居が見つかっています。竪穴住居とは、地面を掘りくぼめて、床面を作り、その上に屋根をかけた当時の一般住居です。大きさは一辺３～５ｍで、方形や長方形をしています。竪穴住居の内部にはカマドが作られています。今年度の調査で見つかった５棟は東側の壁際にカマドが作られており、煙を屋外に排出するための煙道を持つものと煙道がないものがあります。写真３は煙道のある竪穴住居です。写真上が東側で、東壁のやや北寄りの位置にカマドが作られています。カマドの奥に見える円形の穴が煙を排出するための穴です。写真４は煙道のない竪穴住居です。同じく、写真上、東壁の北寄りにカマドが作られています。写真３のような煙を排出するためのトンネルや穴はなく、竪穴住居の壁の一部が赤く変色しています。

写真５は今回の調査で遺物が最も多く出土した竪穴住居の写真です。形のわかる土器も見つかっています。遺物の特徴から遺構の詳細な年代を知ることができます。

この他に、竪穴住居と同じつくりをしたカマドを持たない遺構が１棟見つかっています。床面には焼土があるため、この中で火を使う作業を行っていたことは確かです。

写真３　煙道のある竪穴住居

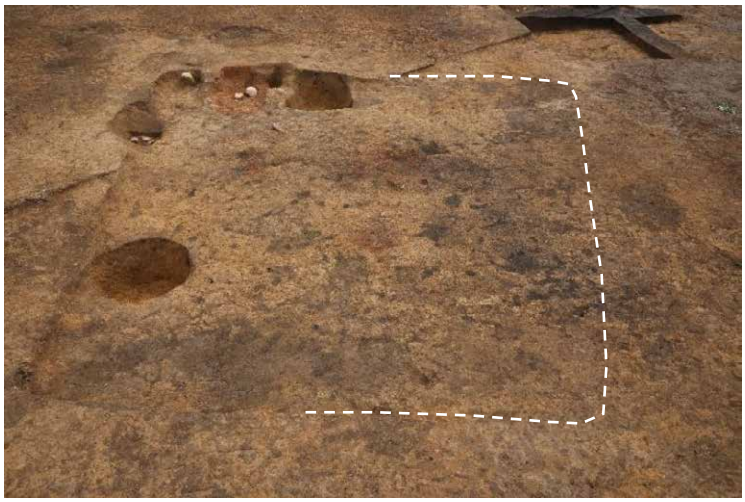

写真４　煙道のない竪穴住居

写真５　多くの土器が出土した竪穴住居

まとめ

岡田遺跡では、主に、縄文時代と平安時代の人々の生活痕跡を確認することができました。縄文時代は川や低地に挟まれた、この丘一帯の地形を利用して、計画的に、落とし穴を配置した狩りの場であることがわかってきました。また、平安時代には日当たりの良好な南側の緩やかな斜面に集落を営んでいたことがわかりきました。

引き続き、発掘調査や室内整理を進め、各時代の様相を検討していきたいと考えています。

岡田遺跡　遺構図

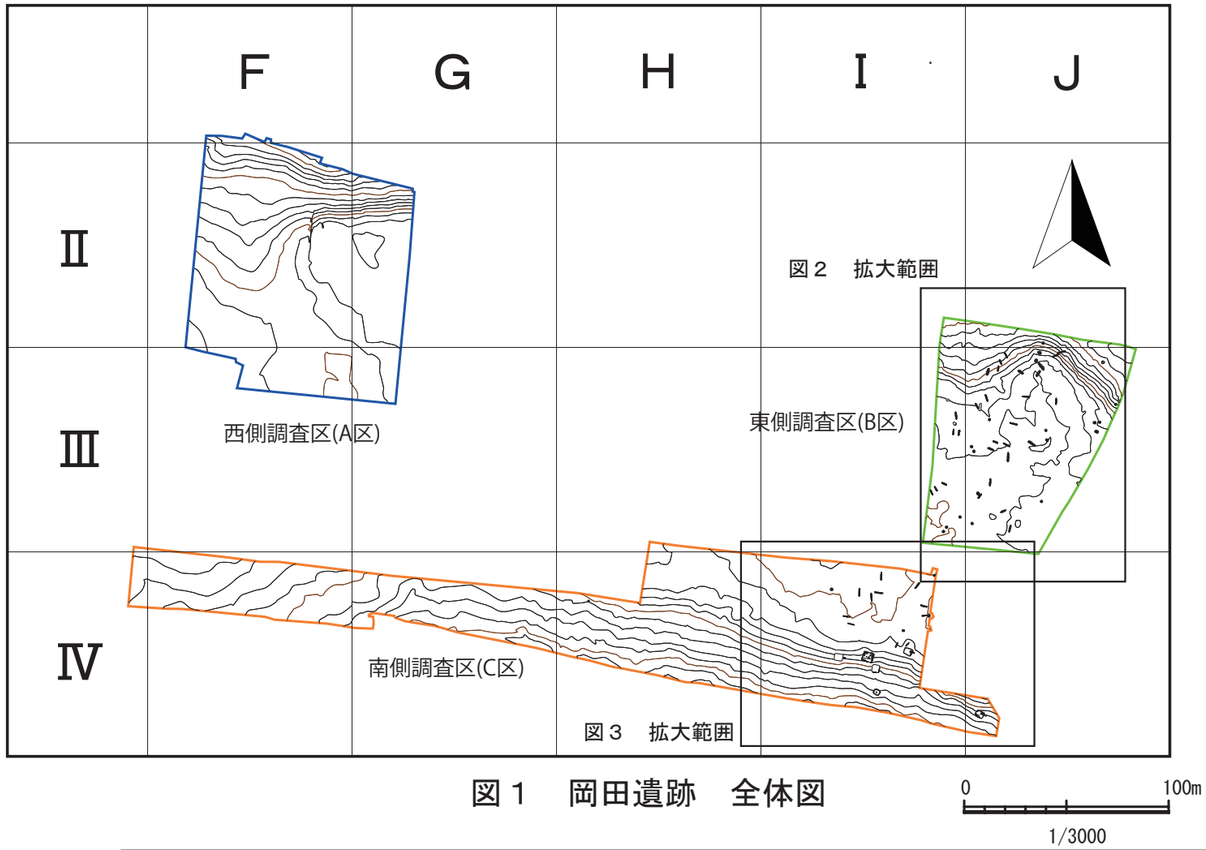

図１　岡田遺跡　全体図

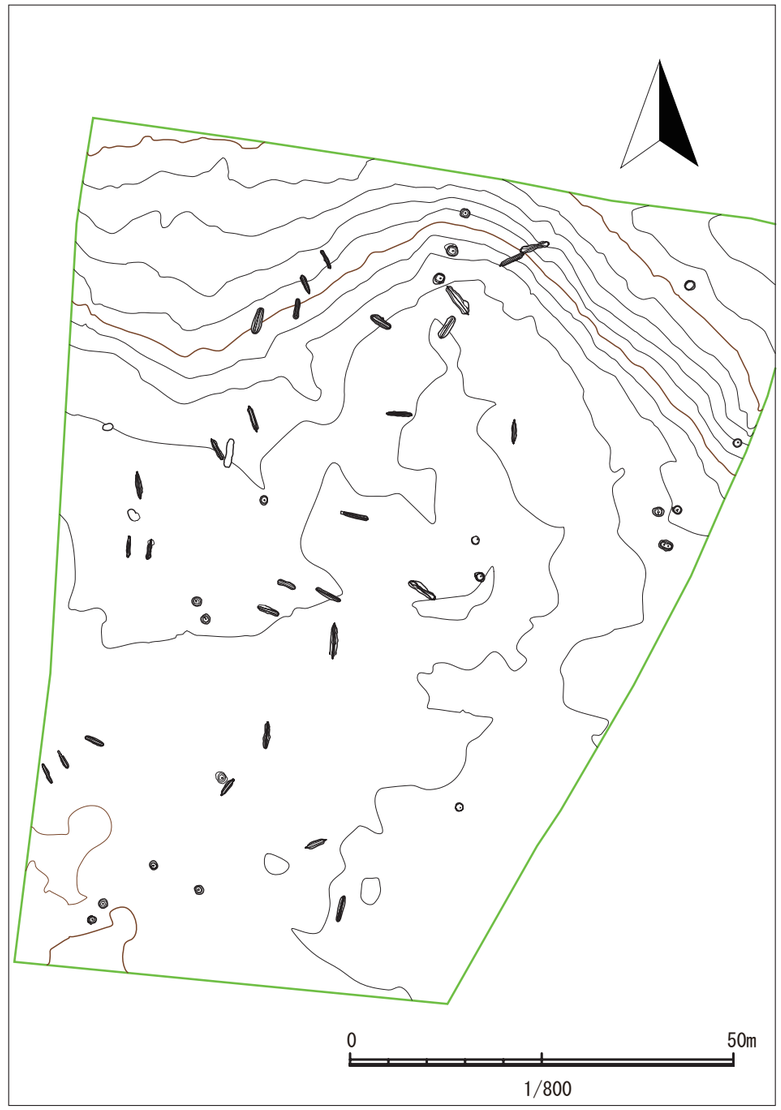

図２　東側調査区（B区）拡大図
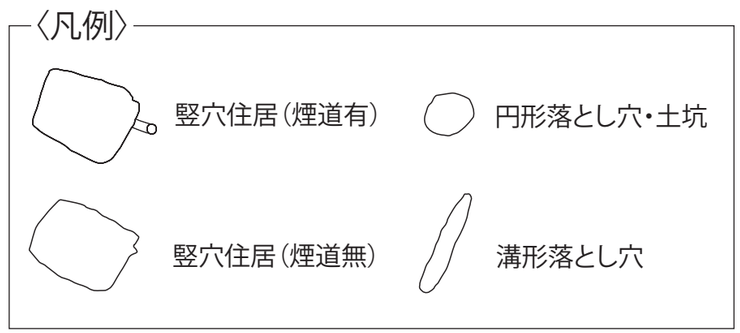
図３　南側調査区（C区）東側拡大図